

V64b 広島大学 1.5m 望遠鏡計画とシーイング調査

川端弘治、上田篤、深沢泰司、大杉節 (広島大理)、沖田喜一、柳澤顕史、小矢野久、吉田道利 (国立天文台岡山)

広島大学では、現在国立天文台三鷹キャンパスで運用されている赤外シミュレーター 1.5m 望遠鏡 (カセグレン・ナスミス焦点とも $f/12.2$) を中核施設に据えた、宇宙科学センターの設置準備を進めている。望遠鏡は、平成 17 年度初めには西日本へ移設される予定となっており、可視・近赤外域での本格的な観測研究 (一部共同利用を含む) や教育目的での利用などが計画されている。

本望遠鏡を用いた主たる研究テーマは、GLAST や Astro-E2 など高エネルギー波長域の観測衛星と連携した天体現象の解明で、ガンマ線バーストの初期残光の観測や、ブラックホール連星系の継続的な観測などが含まれる。望遠鏡のナスミス焦点には GLAST/LAT のガンマ線バースト位置同定誤差をカバーする広視野カメラを据え、カセグレン焦点には低分散分光や偏光測定機能を備えた簡潔な観測装置を据える予定である。望遠鏡の鏡はすべてアルミ蒸着として、可視全域の観測に対応させるほか、焦点切り替えを遠隔操作可能とするために第 3 鏡のステージを新しく製作する。必要な装置開発や望遠鏡制御系の整備等は平成 16 年から開始する。

講演では、計画の概要と進捗状況、及び移設先検討の為に国立天文台岡山や京都大の協力も得て行われたシーイング・夜空輝度調査の結果について、まとめて報告する。